SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡地学第100号に寄せる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 通玄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024761

静岡地学第100号に寄せる

静岡県地学会　元会長　伊　藤　通　玄

本会が創立40周年を迎えた2004年，「静岡地学」第90号に「40周年記念事業として静岡県のGEO DATAをつくろう」という久保田実委員の提案があった．その要旨は，本会創立20周年記念事業として「遠足の地学」，30周年記念事業として「駿遠豆大地見てあるき（続遠足の地学）」を出版したが，40周年記念事業では「県内の地学的事象を項目別にリストアップし，それらのデータを統一的基準でまとめたGEO　DATA　BASE」を作成する数年がかりの大事業に取り組もう」というものであった．この取り組みの経過は，「静岡地学」第91号以降の「静岡県地学会のあゆみ」(89)－(98) で要約紹介されているが，その成果の一部がGEO　DATA特集として機関誌「静岡地学」第100号記念号に掲載される運びとなったことはまことに喜ばしい．この事業を進められた皆さんのご努力に深謝するとともに，充実した記念号が刊行されることを心から祝福したい．

顧みれば，本会機関誌「静岡地学」の創刊号が発行されたのは，1964年11月であった．佐々倉航三初代会長は「本会の主たる使命は“地学教育”と“地学研究”の進歩発展に寄与することであり」，「県下における自然の愛好家や篤学の諸賢が挙って本会の趣旨を理解され，振るって入会されるのみならず地学教育や地学研究に関して世に益する原稿を続々と寄せられることを念願してやまない」と述べられた．さらに創立10周年記念号では，桐谷文雄３代・５代会長は「創立当時の会員数は113名であった」が「年々会員数は増加し現在は300名を越す状況」で，「年２～３回の機関誌「静岡地学」の発行，毎年春の総会，秋の年会，年数回の見学会，実習旅行，研修会等を実施」する本会の活動に満足の意とともに，会員諸氏の熱心な努力・協力に謝意を表された．

創立20周年記念として取り組まれた「えんそくの地学～静岡県の地学案内～」は創立20周年を待たずに1982年に発刊され，同じく創立20周年記念として取り組まれたニュージーランド巡検（1983年12月25－84年１月５日）の参加報告は創立20周年に当たる1984年６月，静岡地学第49号に掲載された．私は岩橋　徹８代会長の後任として30周年記念事業に関わったが，静岡地学69号（30周年記念号）において，「社会の急速な進展とともに多様化する会員の興味・関心に応え，いかに活動の活性化を図るかが大きな課題」だと指摘した．

この課題について，和田秀樹・楠　賢司会員の「静岡県地学会会員へのアンケート報告」１・２（静岡地学78・79号）は様々なヒントを与えてくれた．例えば，池谷仙之10代会長が理事長として精力的に取り組まれているNPO法人「県立自然史博物館ネットワーク」の諸活動への参加は，未来の担い手育成の観点からも重要だと思われる．「静岡県地学会が今後どのように発展できるかは，若い活力の導入にかかっている」．「将来を担うのは，小・中学校や高校から新たに生まれる若い力」だと指摘された和田秀樹・楠　賢司会員のまとめを紹介して，本稿の結びとしたい．